

文化財等での防火訓練における対応事項チェックリスト

		チ ェ ッ ク 項 目		チェック欄
事前の準備	火災危険の把握	1. 図面等を用いて出火危険がある場所や初期消火が困難な場所等をあらかじめ把握したか。		はい・ いいえ
	訓練想定	どれか一つを選択	1. 夜間など文化財等の関係者が少ない状況を想定したか。	はい・ いいえ
			2. 工事中や利用者が通常よりも特に多い状況等、通常の管理と異なる場合を想定したか。	はい・ いいえ
			3. 文化財等の外部（近隣施設等）からの出火について想定したか。	はい・ いいえ
		4. 図面等を用いて出火危険がある場所や初期消火が困難な場所等を選定し、訓練上の出火場所としたか。		はい・ いいえ
		5. 火災発生時にどの文化財等（美術工芸品や民俗文化財を含む）を優先して延焼防止（搬出する優先順位、手順等）するか明確化しているか。		はい・ いいえ
		6. 文化財等の関係者は消火、避難、通報等に関する事前計画の内容を把握しているか。		はい・ いいえ
火災の覚知	自動火災報知設備による火災の覚知	1. 自動火災報知設備の受信機の発報場所と警戒区域一覧図の照合はしたか。（監視カメラや赤外線センサーが設置されている場合、それらも有効に活用したか。）		はい・ いいえ
消防機関への通報	電話又は火災通報装置	1. 自動火災報知設備の作動又は人により火災を覚知後、電話又は火災通報装置により速やかに消防機関に通報したか。		はい・ いいえ
		2. 通報内容（住所、文化財等の名称、電話番号等）は適切だったか。		はい・ いいえ
		3. 火災通報装置による通報の場合、消防機関からの呼び返しについては、対応する職員数が足りていない等、余裕がない場合には初期消火や避難誘導を優先したか。		はい・ いいえ・ 設置なし
		4. 消防機関に通報したことを、責任者等へ報告したか。		はい・ いいえ

		5. 二段通報を行った場合、現場の確認後に速やかに状況を通報したか。	はい・ いいえ・ 該当なし
		6. 自動火災報知設備が作動又は人により火災を覚知してから消防機関に通報するまで何分かかったか。 ※1分以内の通報が望ましい。	() 分
現場の 確認		1. 出火場所に行き火災の有無を確認したか。火災の確認後「火事だー」と大声で2回以上叫んだか。	はい・ いいえ
		2. 自動火災報知設備の作動後、出火場所で火災の確認をするまで何分かかったか。 ※5分未満が望ましい。	() 分
初期 消火	消火器	1. 消火器による初期消火のタイミングと実施場所は適切だったか。また操作手順は正しかったか。	はい・ いいえ
		2. 駆けつけ時に携行した消火器で消火することが出来ない場合に備え、周辺から複数の消火器を集めたか。	はい・ いいえ
	屋内 (外) 消火栓 設備	3. 消火器による初期消火と同時並行して屋内(外)消火栓設備の準備を行ったか。	はい・ いいえ
		4. 屋内(外)消火栓設備による初期消火のタイミングと実施場所は適切だったか。また操作手順は正しかったか。	はい・ いいえ・ 設置なし
		5. 屋内(外)消火栓設備は2人以上で操作したか。またホース延長は捻れ、屈曲等がなくホースの本数も適切だったか。 ※易操作性1号消火栓等の場合は、1人操作でもよい。	はい・ いいえ・ 設置なし
		6. 屋内(外)消火栓設備の放水時間は適切だったか。	はい・ いいえ・ 設置なし
		7. 屋内(外)消火栓設備の延長ホースが障害となり、防火区画を構成する防火戸が閉鎖できないようなことはなかったか。	はい・ いいえ・ 設置なし
	共通	8. 初期消火終了後、その結果を消防機関へ報告したか。	はい・ いいえ
		9. 自動火災報知設備の作動又は人により火災を覚知後、火災現場で消火器を放射するまで何分かかったか。 ※保護対象の周囲が本格的な有炎燃焼に至ってから数分で焼損により文化財としての価値が失われると考えられる。	() 分

		※ 7 分未満が望ましい。	
火災室の戸の閉鎖	1. 火災室からの避難及び初期消火を実施した後、直ちに火災室の戸を閉鎖したか。 ※出火場所に居室等で戸が設置されている場合に限る。	はい・ いいえ・ 該当なし	
他の文化財等への延焼防止	1. 屋外消火栓設備、放水銃、ドレンチャー等の操作手順及び放水対象は適切だったか。	はい・ いいえ・ 設置なし	
	2. 屋外消火栓設備、放水銃、ドレンチャー等を使用したタイミングは適切だったか。	はい・ いいえ・ 設置なし	
情報伝達及び避難誘導	1. 利用者への「火災発生」の情報伝達は適切に行われたか。	はい・ いいえ	
	2. 避難誘導員は所定の配置場所で、事前計画通りに避難誘導を行ったか。	はい・ いいえ	
	3. 出火階及びその上階の利用者を優先して避難誘導を行ったか。	はい・ いいえ・ 該当なし	
	4. 避難の際に、出火室の戸の閉鎖を最優先で行うとともに、火災室以外の部屋等の戸や防火戸を可能な限り閉鎖したか。その際、避難経路上に排煙上有効な窓等がある場合は、これを開放したか。	はい・ いいえ・ 該当なし	
	5. 出火階のすべての部分（施錠等により立ち入ることができない措置を講じている部分は除く。）を確認し、出火階の全ての利用者が屋外の地上へ避難したことを確認したか。	はい・ いいえ	
	6. 多数の外国人来訪者や障害者等の利用が見込まれる文化財等においては、多言語化や視覚化した情報を用いた避難誘導等、利用者の様々な特性に応じた対応を行ったか。	はい・ いいえ・ 該当なし	
	7. 避難終了後、責任者等へ報告したか。	はい・ いいえ	
近隣協力者等との協力	1. 事前の計画等に基づき近隣協力者等と協力したか。	はい・ いいえ	
文化財等の搬出	1. 関係者と協力し、文化財等（美術工芸品・民俗文化財等）の搬出を行ったか。	はい・ いいえ	
	2. 搬出する優先順位が高いものから順に搬出したか。	はい・	

		いいえ
消防隊への情報提供等	1. 消防隊が活動しやすいように消防用進入路や消防水利付近のスペースを確保したか。	はい・ いいえ
	2. 消防隊への情報提供のタイミング及びその内容は適切だったか。	はい・ いいえ
その他	1. 情報が防災センター等に一元化されていたか。	はい・ いいえ
	2. 文化財等の関係者相互の連絡が十分なされていたか。	はい・ いいえ
	3. 建物特有の必要とされる対応が適切に行われたか。 ※天守閣等において防火戸が設置されていない場合、上階への煙の拡大を極力防ぐため、蓋や防煙スクリーン等による簡易な防煙区画を形成する等が考えられる。	はい・ いいえ・ 該当なし
	4. 文化財等の関係者以外の者が通常の利用方法と異なる方法で利用を行う場合（催し物等）、工事や催し物の関係者と文化財等の関係者との間で情報共有が適切に行われていたか。	はい・ いいえ
	5. スプリンクラー設備等により消火が確認できた場合は、制御弁を閉める等により水損防止措置を行ったか。	はい・ いいえ・ 設置なし